

スロラニュー通信 第13号

カンボジアで子ども達の命を守る支援 障がい児支援 × 救急救命 × 歯科支援

2018年10月カンボジア支援活動報告&新年のご挨拶

スースダイ!～新年のご挨拶～ スロラニュープロジェクト代表 飯塚由美子

新年明けましておめでとうございます。昨年は、暖かいご支援本当にありがとうございました。皆様のご支援のお陰で私たちの活動は成り立っています。

2012年、コムルー村に「スロラニュー小学校」（ドントロー小学校分校）を建設してから7年になりました。2011年に立ち上げたボランティアグループ「するまい・こ～ん」からは8年です。毎年、年2回は必ず現地を訪問し活動を続けてまいりました。私とメンバーの一人はその間に1～2回訪れ、活動の調整や、病気の子どもに会いに行くなど、振り返ればパスポートはカンボジアのみ30回以上に記録されています。当初から私たちは常にカンボジアの文化、風習を尊重しながら謙虚な気持ちで活動を継続しています。スタッフのパンサさんは国のことを心から思い、人を大切にできる素晴らしい人間です。彼が居たから私達がほとんど日本に居ても活動が広がりました。家族のような存在です。

2019年、NPO法人スロラニュープロジェクトは、小さな一歩されど大きな一歩を踏み出します。今年も引き続き、カンボジアシェムリアップの地で「障害児支援」「救急救命セミナー」「歯科支援」の活動を通して『スロラニュー（愛する）』を広げたいと思います。今年も引き続き、よろしくお願いたします。

障害のある子ども達の「笑顔」を大切に! モンテッソーリアン 浅原奈緒子

今回、カンボジアでの一番の活動目的は、今後のワットボー小学校での障害児支援についてキムチェン校長先生と相談をすることでした。また、キムチェン校長先生たちが日本を訪問する際に支援して下さった三木ロータリークラブの方々と、スロラニュー小学校や孤児院センターへお連れすることもできました。その他の活動では、いつもデイサービスに来てくれている子どもたちの村へ行くことができました。

活動初日、私達は6時にゲストハウスを出発し、三木ロータリークラブの方々とワットボー小学校を訪問しました。ワットボー小学校では朝7時頃から子どもたちが登校してきます。



カンボジアの小学校はど子ども朝が早く、お昼から登校してくる子どもとの2部制や3部制になっている小学校も珍しくないそうです。

ワットボー小学校では、子どもたちが楽器演奏や合唱で歓迎してくれました。歓迎のセレモニーが終わると、準備して下さった朝食をいただきながら、キムチェン校長先生が今後どのような障害児支援（障害児教育）を考えられているのかについてお話を聞くことができました。キムチェン校長先生は、日本の就労施設や特別支援学校、普通校にある特別支援学級、障害児通所施設などを訪問されて、障害のある子どもも学校へ行き、将来は働くことができる仕組みに感激されていました。そして、カンボジアでも障害児も学校へ行ける環境を作り、障害のある人も働けるようにしたいと考えられているようでした。キムチェン校長先生は、子どもたちの教育を考えるときに大切にしていることは「笑顔」とおっしゃっていました。キムチェン校長先生は、近い将来、ワットボー小学校だけではなくシェムリアップ全体の学校に障害児支援（障害児教育）を取り入れるために、モデルとなる試みをワットボー小学校で始めたいと考えられているそうです。これらのお話には、副校長先生も同席して下さり、2日後に、ワットボー小学校の先生方へビデオをお見せしながら、障害についての説明や日本の就労や学校の紹介をさせていただき打ち合わせもできました。

今後、私達はどんなことから始めていくのか、真剣に考えなければいけないと思います。日本の真似をしてもらうのではなく、カンボジアに適したものをカンボジアの方といっしょに作っていかねば、カンボジアに障害児支援（障害児教育）を根付かすことはできないと思います。いま、1つ目の取り組みとして、私達がカンボジアで出会った障害のある子どもたちのビデオを通して、先生方へ障害を理解していただくことを始めています。そして、その理解が子どもたちや保護者の方々へと広がっていくような工夫をしていきたいと思います。キムチェン校長先生が大切にされている子どもたちの「笑顔」を私達も大切にしていきたいと思います。



つぎの訪問先はスロラニュー小学校でした。三木ロータリークラブの方からいただいた色鉛筆やノートで子どもたちはとても楽しく活動ができました。物があるということは、本当に子どもたちの活動の幅を広げてくれると実感しました。そして、次の訪問先の孤児院でも、いただいたボールで子どもたちがはしゃぎまわっていました。

活動2日目、デイサービスに来てくれている子どもたちの村へ行きました。いつもより少し時間に余裕があったので、毎回は家に行くことができていない子どもたちの村へ行くことができました。

活動3日目、ワットボー小学校へ行き、初日に副校長先生と打ち合わせした障害についての説明や日本の就労や学校の紹介を先生方にさせていただきました。午前と午後の2回に分けてさせていただいたので、ほぼ全員の先生にお話することができました。

活動4日目、スロラニュー小学校へ行き、幼稚部の様子を見せていただきました。カンボジアは11月からが新年度ですが、幼稚部の先生は前年度と同じ先生で、とても熱心な先生です。前年度から、日本人の保育士さんでカンボジアに住んでいる高橋春香さんが週に2回、先生と一緒に活動してくれています。毎回、活動の内容をビデオやメールで私達に送ってきてくれます。11月は春香さんが2年ぶりに日本へ帰国している時と重なってしまい会えませんでした。私達が日本へ帰ってきて



から、飯塚先生が園長をされている障害児施設「あおぞら園」に春香さんをお招きして、幼稚部の活動について相談をしました。やはり幼稚部でも、発達が気になる子どもが数名いるので、その子どもたちへの対応を考えたり、みんなと一緒にできる活動を考えたりしました。カンボジアの方たちのことをよく知っている春香さんの心遣いで、スロラニューの担任の先生が、子どもたちと活動を楽しんでくれていることがとても嬉しいです。これからも、カンボジアの子どもたちや先生たちへ楽しい活動を提供できるように頑張りたいと思います。

小さな団体が夢をかなえる一歩～治療教育をカンボジアに～ 飯塚由美子



2010年、メンバーの一人服部がスタディーツアーでカンボジアシェムリアップを訪れたことがきっかけで、石倉、東、飯塚が、「するまい・こ～ん」というボランティア団体を立ち上げました。当初はできる範囲で支援活動を行いながら、2012年に小さな学校を建設しました。その頃からシェムリアップにおいて常日頃日本で関わっている、障害児や障害のある方たちが気になり、一人そしてまた一人とご自宅に訪問しながら栄養食の支援、お母様の相談支援、通院援助、お米支援など個々に応じた支援を実施してきました。小さな団体の小さな力は及ばず、日本では助かる命も現地の医療の現状から4名の大切な命を失いました。そして、障害のある子どもは、学校に通っていない実態も分かりました。その頃から、私の心に小さな灯がともり始めました。障害があっても、貧困でも全ての子ども達が教育を受けることが出来ないだろうか…

そんな思いを、教育者に訴えましたが、「貧困が先決です」との返答でした。

2012年からスロラニュー小学校継続支援、歯科支援、救急救命セミナーを地道に続けてきたことが、少しずつ信頼につながり、ついに一昨年10月に福祉局長、6000人規模の小学校の校長、孤児院センター統括、の方たちを日本に招待できました。三木みどりロータリークラブの皆様のご支援のお蔭です。

日本ではあいにく台風が来ていた為に、観光は全くできず、ひたすら障害児者の施設の見学でした。就学前から就学期、そして就労支援までしっかり見学していただきました。そのことが、功を奏し、まさに「百聞は一見にしかず」

なんと、「貧困が先決です」と言われていた6000人規模の小学校を運営されているワットボー小学校キムチェン校長が「ワットボー小学校に障害児特別支援教育を始めたい」と切望されたのです。

昨年11月にワットボー校長との打ち合わせ、教師の皆さんには障害児者の映像を見て頂いての質疑応答など、これからの特別支援の序章です。保護者が自分の子どもの障害を認めない現状での介入は、かなり前途多難です。



私が現在勤めている社会福祉法人三田谷治療教育院の理念である「治療教育」。三田谷啓がドイツで学んだ治療教育を日本で実践したように、モンテッソーリアンの浅原奈緒子さんを中心に、シェムリアップにおいて治療教育を始めることの小さな一歩がスタートです。

大それたことは言いません、スロラニュープロジェクトの理念である「すべての子どもは愛と教育を受ける権利がある」という当たり前のことを、2010年服部から始まった縁のあるカンボジア、シェムリアップの地で、いよいよ挑戦です。

